

雜報

大正四年度第二十四回卒業生人名

第一部甲類 英語法律科 政治科 經濟科

商業科 六十三名

内田 益次郎 德永 信愛 立花 定  
 小河 正儀 隈部 種樹 一萬田 尙登  
 三浦 圓藏 野田 一誠 栗山 茂武  
 武光 三一 樋口 邦雄 宮井 親造  
 木下 郁 新野尾 善九 清水 文雄  
 中島 知道 許斐 氏名(京) 山本 千里  
 松延 彌三郎 森 秋生 藤井 謙一郎  
 (京)上野 謹一 鬼塚 等(東文) 高田 運吉  
 信原 義夫 荒木 要 清水 彌壽雄  
 天崎 良信 功力 梅太郎(京) 佐藤 信義  
 (京)宮瀨 安雄 赤堀 鐵吉 片山 武助  
 松岡 英介 竹下 宜雄(京) 守永 醇一  
 小柳 津宗吉(京) 坂本 猛 黃 倫 芳

高木 貞治 藤田 收 山内 龜三郎  
 峯 六郎 莊司 由彦 兼松 龍雄  
 芹川 定 太田 新吾(京) 坂内 正行  
 久坂 誠一 久米田 正三郎 吉川 亞周  
 田中 享 田中 弘吉 榎本 彌之助  
 天春 昌次 手塚 猷治 兒島 高俊  
 福島 政明 津田 元一(京) 寺田 實  
 佐野 二三郎(京) 藤山 清 鎌田 健雄

第一部乙餘 文科 二十八名

高機 鴻助 岡 潤吉 東陽 延翁  
 高森 良人(京) 兼安 麟太郎 隈部 了孝  
 (京)大庭 巖 伊藤 惠(京) 森 脇 雪  
 (京)關 弘 伊藤 祐之(京) 德安 善次郎  
 林田 敏文 池田 實 小野島 行忍  
 (京)吉武 正男(京) 中山 勤(京) 橋本 寬一  
 (京)專崎 弘(京) 境 一郎 山本 鉄雄  
 上原 義雄(京) 稱 當 央(京) 松尾 一義  
 齋藤 護國(京) 山内 勝二(京) 草場 鐵雄  
 (京)永井 重義

第一部丙類 獨語法律科 政治科

三十二名

内田 藏 佐藤 淳 福島 涉

島 準人 大槻 誠也 江口 重國

廣田 佐次郎 大津 敏男 高山 豐秀

加納 絃一 齋藤 德藏 志垣 明

王 兆榮 正岡 勝男 森 貞彦

林 國雄 (京)田萬清臣 (京)高山義三

(京)川野 浩 (京)村尾 元良 森本 義夫

佐藤 重臣 (京)江島 秀 上村 清光

桃原 茂太 (京)古城 辰貞 今中 次麿

松永 龜齡 指原 享 (京)森 永 檀

(京)松尾 俊三 (京)丸野 唱

第二部甲類 工科 五十八名

(九)和田 正雄 (九)池松 信夫 中野 美智麿

藤田 保太郎 關田 友吉 (九)松井 節藏

白石 春雄 (九)原田 梧樓 田邊 方亮

(九)中村 能一 瀨高 武雄 (九)内丸 保治

日高 政一 松本 伊之吉 李家 正次

南省 吾 (九)鎌田 嘉次郎 横尾 眞平

(九)木下 榮 德住 宮藏 古地 俊吉

(京)橋本 日吉 (九)田中 隆作 (九)藤井 三郎

原田 勝彦 (理)原田 隆康 谷口 長一郎

(京)高島 幸之祐 松井 淺市 (九)山本 惠祐

(京)岡添 柳吉 (九)柳原 才次郎 (九)山田 義勇

富田 虎雄 (九)西村 信一 戶梶 晴海

村田 八束 中島 武彦 (九)石橋 六郎

進藤 鼎 (京)池末 溥江 (京)室本 豊治

鬼木 崎太郎 (九)井門 文三 (理)元野 貞勝

(九)土岐 増太郎 (九)田代 哲郎 (京)松下 新輔

(九)北島 信夫 (九)中村 英城 (九)筑波 次彦

(京)楊 蔭 繭 吉田 賴重 (京)古賀 幸之助

(九)芦 塚 壽 (九)原田 春三 (九)伊牟田 義人

野瀬 正人

第二部乙類 理科 五名

中路 清 小山 準二 (理)井上 春成

何邦 著 力丸 啓太郎

第二部乙類 農科 十六名

玉井 卓曠 中島 友輔 島 剛

納富 金作 林 駿 中村 英夫

柴戸 良五郎 矢田 威 豊田 常人

田邊 敬次郎 岡田 義宏 松本 芳道

横山 桐郎 石川 房吉 寺崎 正吉

椿 乙實

第二部乙類 醫科ノ内藥學科 一名

富村 邦好

第三部 醫科 四十名

(九)山川 強四郎 柴山 義雄 中島 實

古川 俊勝 植木 良佐 谷 康 貞

(京)日野 貞次 山下 金吾 樋渡 肥佐雄

(京)大 森 作 (九)淺田 爲義 (京)高見 卯吉

(九)荒木 久米吉 (京)内田 次郎 (京)久保園善次郎

(九)楠 正人 (京)齋藤 護邦 (京)黒田 乾一郎

(京)伏木 卓也 (九)宮 城 順 (京)河 野 勉

(京)中島 壽夫 (京)池田 東洋 (九)相場 四郎

(九)飯田 六造 (九)鹽 足 武 (九)伊藤 辰次

(九)向井 治雄 (九)村上 槌夫 (九)西 維 承

(九)坂本 振起 (九)和田 勤一郎 (京)大村 節次郎

(九)石井 正巳 (九)廖 行 生 (九)荒川 常太郎

(京)喜多村隆三郎 三田 泰三 (九)桑原 儀太郎

(京)祝 洋之助

龍 南

新入生諸君を迎ふ

秋風一過。幽韻野に轉じて、三百の諸君新に龍南の天地に聚る。渾てこれ激甚なる競争に勝を制したるの人、意氣揚々また盛んなるかな。吾人これに依りて當年の歡喜を追回し、君と我れと、共に與に男性至快の感情を味うて、光榮に高鳴る碧血三斗茲に薰じて龍南頤に一縷の清新の氣の流るゝを見る。良會恒に欣抃歡呼すべしと雖も、この事殊に悦ぶべし。思ふ、君等瞳をあげて蘇山の噴烟を眺め、耳を立て、龍山の松籟を聽き、我が青春を托する天地のいみじき壯美を思ふとき、古き憧憬は更に現前事象の華艷に彩られて恍惚として陶酔せしむべきものあらむ。かの人を見よ、かの自然を見よ。君等を環るもの悉く三年の生活を悅樂せしむるに足る。この光榮を荷ひ、この地を踏み、この人と共に新に向し。爛煥たる理想の凝つて龍南三年の生活を實現す